

令和 5 年 8 月 3 日
愛 媛 大 学

四国で 2 新種のナガゴミムシを発見 ～四国内で 5 種に種分化～

この度、四国県内でイヤナガゴミムシ *P. noboruitoi* (徳島県と高知県の剣山系に分布)とジヨシナガゴミムシ *P. pseudohigonis* (愛媛県と高知県の石鎚山系より南に分布)の2種が新たに発見されました。さらに、これらの仲間である5種が四国に、3種が九州に分布することが判明しました。この発見は、愛媛大学大学院農学研究科2年生の椎葉瞭太さん(吉富研究室所属)が、修士論文研究の一環として四国と九州に分布するナガゴミムシ属のヒサマツナガゴミムシ種群について、野外調査や各地の博物館の標本調査を行い再検討した結果によるものです。

この2新種の基準標本は、愛媛大学ミュージアムで保管されており、8月5日(土)から開催予定の「昆虫展2023」にて展示予定です。また、本研究結果でまとめた論文が、2023年7月15日発行の日本昆虫分類学会の英文誌「Japanese Journal of systematic Entomology」に掲載されました。

つきましては、是非ご取材くださいますようお願いいたします。

記

【昆虫展2023「えひめの昆虫・セカイの昆虫」】

開催期間 : 令和5年8月5日(土)～10日(木) 10:00～17:00(入館は16:30まで)

会場 : 愛媛大学ミュージアム

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

【論文について】

掲載誌 : Japanese Journal of systematic Entomology (日本昆虫分類学会誌)

題名 : Revision of *Pterostichus (Sphodroferonia) hisamatsui* Ishida and Shibata and its Relatives (Coleoptera: Carabidae) from Shikoku and Kyushu

著者 : Ryota Shiiba

*オリジナルの論文 PDF は下記からダウンロードできます。

<https://drv.ms/b/s!AvOxGpiMavWugYUh24opBoy0U805YA?e=u2gaxA>

本件に関する問い合わせ先

愛媛大学大学院農学研究科(愛媛大学ミュージアム兼任)
准教授 吉富 博之

TEL: 089-946-9898

Mail: hymushi@agr.ehime-u.ac.jp

※ 送付資料 3 枚(本紙を含む)

※論文のコピーは提供可能です。

<研究成果>

四国と九州に分布するナガゴミムシ属のヒサマツナガゴミムシ種群を再検討し、四国で2新種を発見しました。見つかった2新種は、徳島県と高知県の剣山系に分布するイヤナガゴミムシ *P. noboruitoi* と愛媛県と高知県の石鎚山系より南に分布するジヨシナガゴミムシ *P. pseudohigonis* です。

<研究の背景>

愛媛大学大学院農学研究科の大学院生、椎葉瞭太さんは、修士論文でナガゴミムシ属の分類学的研究を行っています。ナガゴミムシ属は後翅が退化して飛べない種が多く、各地で種分化していることが考えられ、分類学的にも混乱も見られます。特にナガゴミムシ属の分類には、雄交尾器の内袋とよばれる部位の形状が種による差を明瞭に表しますが、この部位の観察が難しく網羅的な研究がされていないグループも存在します。

ヒサマツナガゴミムシ種群は、体長が15mm程度と比較的大型のゴミムシの仲間で、本州、四国、九州の山地帯に12種3亜種が知られていました。このうち、標本が十分に検討できた四国と九州の4種2亜種について、野外調査や各地の博物館の標本調査により研究を行いました。雄交尾器の内袋の観察を含め網羅的に比較検討したところ、亜種とされていたものはそれぞれ独立種であることに加え、四国から2新種が追加されることが判明し、四国に5種と九州に3種が分布すると整理されました。

<成果内容>

本研究成果は、日本昆虫分類学会の英文誌「Japanese Journal of systematic Entomology」に原稿を投稿し、2023年7月15日に論文が掲載されました。

今回記載された2新種の基準標本は愛媛大学ミュージアムで保管されており、愛媛大学ミュージアムで8月5~10日に開催の「昆虫展2023」で展示予定です。

<展望>

四国における本グループは、アワナガゴミムシ（讃岐山地）、イヤナガゴミムシ（剣山系）、ヒサマツナガゴミムシ（石鎚山脈・高縄山系）、ジヨシナガゴミムシ（石鎚山系より南の山地）、クロソナガゴミムシ（鬼ヶ城山系・足摺半島）の5種で、地域的に種分化していることが判ります。しかし、今回再検討した九州では分布の空白地帯も見られ、更なる現地調査が望まれます。今後は、今回検討しなかった本州に分布する種について、研究を進める予定です。



図 新種で記載されたイヤナガゴミムシ（左）とジョシナガゴミムシ（右）。互いによく似ていて、雄交尾器の内袋の形状などで区別できる。

（図は高画質のものを提供できます。また、論文内で使用されている他の写真も提供可能です。）